

## 研究・調査報告書

|  |                      |
|--|----------------------|
| 報告書番号  | 担当                   |
| 201  | 滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門 |
| 題名 (原題/訳)  |                      |
| <p>Associations between lifestyle and mental health in a group of Japanese overseas workers and their spouses resident in Dusseldorf, Germany.</p> <p>デュッセルドルフ在住日本人海外勤務者およびその配偶者集団における生活習慣と精神的健康との関連</p>   |                      |
| 執筆者  |                      |
| Tuekpe MK, Todoriki H, Zheng KC, Kouadio K, Ariizumi M.  |                      |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日)  |                      |
| Ind Health. 2006; 44(2): 258-66.   |                      |
| キーワード  |                      |
| 断面調査、生活習慣、精神的健康、海外勤務者、配偶者、THI (東大式自記健康調査)  |                      |
| <p><b>要 旨</b></p> <p>本研究は、デュッセルドルフ在住の日本人海外勤務者およびその配偶者集団における生活習慣と精神的健康との関連を検討したものである。この断面調査は1994年2月、882名(勤務者486名およびその配偶者336名)を対象として、精神的健康の4局面(抑鬱性・情緒不安定性・緊張感・神経質)、および6つの生活習慣(飲酒量、睡眠時間、喫煙、運動、朝食摂取、間食摂取)を評価するために、東大式自記健康調査(THI)や生活習慣についての項目を含む自記式質問紙調査法により行われた。その結果、勤務者集団では、飲酒量は4つの精神的健康のいずれにも関連していなかった。他の5つの生活習慣のうち、睡眠時間は抑鬱性・緊張感・神経質(それぞれの標準化β係数およびp値は、-0.089, 0.044; -0.108, 0.019; -0.108, 0.015)と、喫煙は抑鬱性と(標準化β係数およびp値は、-0.099, 0.029)、間食は抑鬱性と(標準化β係数およびp値は、-0.128; 0.005)、運動は抑鬱性・情緒不安定性・神経質と(それぞれの標準化β係数およびp値は、-0.167, 0.0002; -0.098, 0.031; -0.122, 0.006)ごく弱い負の相関を有していた。配偶者集団では、運動だけが3つの精神的健康(抑鬱性・情緒不安定性・神経質)と統計学的に有意な関連を示した(それぞれの標準化β係数およびp値は、-0.152, 0.005; -0.170, 0.002; -0.161, 0.003,)。しかしながら本研究は断面調査のため、生活習慣と精神的健康のいずれが原因で、いずれが結果であるかについては断定できない。</p> |                      |